

令和4年度第3回大船渡市学校支援活動運営委員会

日 時 令和5年2月16日(木) 午後3時
場 所 リアスホール 展示ギャラリー

次 第

1 開 会

2 挨拶

3 協議

協議第1号 令和4年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

協議第2号 令和5年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

4 その他

5 閉 会

協議第1号 令和4年度大船渡市地域学校協働本部事業の総括について

令和4年度大船渡市地域学校協働本部事業の大船渡市学校支援活動実施事業の総括について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第2項の規定に基づき、意見を求めます。

令和5年2月16日

大船渡市学校支援活動運営委員会
委員長 鎌 田 慎

事業名	家庭教育学級		
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携し、子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ。 ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る。		
事業概要 (実施状況)	市内小学校4校、保育園・こども園3園を対象に家庭教育学級を開催した。 (延べ7箇所、延べ参加人数422人)		
評価項目①	学校・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	※「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合 学習内容の満足度	1校(園)あたりの前年度比参加人数	
評価方法	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年度比同数以上 (R3実績:85.8人)	
実績	94.8%	60.3人	
達成度	○	△	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	※「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合 学習内容の満足度	※「そう思う」「まあまあ思う」と答えた人の割合 学習内容の家庭での取組意欲	※「概ね理解できた」「要点は理解できた」と答えた人の割合 学習内容の理解度
評価方法	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
実績	94.9%	93.7%	95.4%
達成度	○	○	○
成果	<p>評価項目①について、1校(園)あたりの前年度比参加人数が目標値に届かなかった。前年度の実績が高かったこともあるが、実施校(園)の参加人数は概ね良好であったと考える。</p> <p>評価項目②について、アンケートにおいては、「無回答」も少なく、すべて目標値を上回った。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染防止の観点から2箇所中止となったが、オンラインでの開催や、当初予定のなかった小学校からの実施希望があり、当初予定の8箇所に対して7箇所実施できたことは、3年に1回の割合で実施することとした効果が表れた。</p>		
次年度の課題	<p>令和4年度から、小・中学校において、保育園・こども園等と同じく、3年に1回の割合で実施することとしたが、コロナ禍の影響や学校間の日程調整の面から、実施できていない状況にある。</p> <p>こうした状況を踏まえて、令和5年度以降は、中学校区での実施について、各小・中学校単位で実施する等の見直しを考えている。</p>		

達成度

◎ : 100%以上

○ : 80%以上~100%未満

△ : 50%以上~80%未満

× : 50%未満

事業名	青少年体験学習事業	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と、子どもに多様な経験を積ませて、青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む。 ② 子どもの自主性を育む。	
事業概要 (実施状況)	保育園等における年中から中学3年生までを対象として、陶芸体験学習及びドローンプログラミング体験教室を開催し、多様な体験学習の機会を提供した(参加人数64人)。また、年中から小学2年生までを対象として、英語体験教室を2回開催した(参加人数77人)。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率 (定員合計：132人、参加総数：141人)	参加者のうち「新しくやりたいことが見つかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫したりできた」と回答した参加者の割合
評価方法	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
実績	106.8%	57.1%
達成度	◎	◎
評価項目②	自主性の育成	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した児童・生徒、保護者の割合	
評価方法	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	
実績	88.7%	
達成度	◎	
成果	「陶芸体験学習」、「ドローンプログラミング教室」及び「英語体験教室」は、受講申込者が募集定員を上回り、抽選で参加者を決定したこと等から、市民の学習ニーズに沿った魅力ある教室を実施することができたと考えている。 英語体験教室については、抽選で参加できなかった方のため、2回目を実施し、1回目に参加できなかった親子等申込者全員が受講することができた。	
次年度の課題	学習ニーズが高く、人気のある教室を開催していることもあり、抽選等により参加できない申込者が多い状況となっていることから、希望者全員に学習機会を提供できるよう工夫する必要がある。 なお、陶芸体験学習については、令和5年度からは、大船渡市芸術文化協会事業として実施することとし、青少年体験学習事業としては、別の講座の実施を企画する必要がある。 また、英語体験教室について、令和5年度からは、家庭教育学級事業として実施する。	

達成度

◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満

事業名	スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。				
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する。 ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする。				
事業概要 (実施状況)	① 市内各小・中学校11校に36人スクールガードを配置した。 (登下校引率型26人、通学路巡回型9人、スクールバス添乗型1人) ② 地域住民をスクールガードとして登録し、登下校時の安全監視を行った。				
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保				
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	0件		0件		
実績	0件		1件		
達成度	◎		△		
評価項目②	地域住民による参画				
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取組に対する認識の拡大
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート
目標値	34人	75%	75%	75%	75%
実績	36人	82.3%	76.5%	94.1%	94.7%
達成度	◎	◎	◎	◎	◎
成果	① 登下校の引率と通学路の巡回や、配置希望のあった学校に新たにスクールガードを配置することで、徒歩通学児童・生徒の交通事故を防ぐことができた。 ② 事故の発生はなく、声かけ案件は1件にとどまった。 ③ 児童・生徒の日々の成長を見ることや、児童・生徒とコミュニケーション等を図ることにより、スクールガードの80%以上が生きがい・楽しみを感じた。また、70%以上がスクールガードをすることで新たな知り合いが増える等、スクールガード活動により、地域住民の自己有用感を高めることができた。				
次年度の課題	① 通学路に危険が伴う地域があることに加え、声かけ案件の発生や不審者の情報提供、学校への脅迫メールが散見されることから、児童・生徒の安全のためにも、今後とも登下校時の安全確保対策が必要である。 ② 次年度も活動を継続すると回答したスクールガードは半数以下であった。事業継続のために、地域住民の協力を得ながら、人材の安定的確保が必要である。				

達成度 ◎ : 100%以上 ○ : 80%以上～100%未満 △ : 50%以上～80%未満 × : 50%未満

事業名	学校支援事業	
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。	
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。	
事業概要 (実施状況)	学校より要望のあった地域コーディネーターを6校に5人配置し、生涯学習課に1人配置した。また、地域ボランティアを12校に13人配置し、学校支援を実施した。 (図書ボランティア：12校11人、金管指導ボランティア：1校2人)	
評価項目	地域コーディネーターの人材確保	
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する	
指標取得先	年間実績	
目標値	15校	
実績	6校	
達成度	×	
評価項目	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成	
評価指標	ボランティアの人材確保と育成を図るため、研修会を開催する	研修内容を学校支援ボランティア活動に活用できると回答した人の割合
指標取得先	参加者の割合	受講者アンケート
目標値	75%	80%
実績	64%	100%
達成度	△	◎
成果	<p>① 地域コーディネーターの全校配置には至らなかったが、希望のあった6校には配置し、地域住民のより積極的な学校活動への参画を促した。</p> <p>② 図書支援活動地域ボランティア研修会を大船渡市立図書館の司書を講師に開催した。実際の活動現場の1つである大船渡市立大船渡北小学校図書室で開催することで、普段の業務を踏まえた実践的な学習を行うことができた。 また、研修内容を新・旧ボランティアがどちらも学べる内容にすることで、効果的なボランティア育成を図ることができた。</p>	
次年度の課題	<p>① 単独で活動している各校の地域コーディネーターを集め、各校の実施状況や活動を実施する上での互いの悩みを話し合える機会の提供等、より円滑に業務が進められるよう工夫が必要である。</p> <p>② 学校支援ボランティア研修会において、ボランティアだけでなく担当教諭の参加も呼びかけることで、学校支援における、学校・地域の連携強化を図る。</p> <p>③ 地域コーディネーターの全校配置。</p>	

達成度 ◎：100%以上 ○：80%以上～100%未満 △：50%以上～80%未満 ×：50%未満

事業名	学校運営協議会設置事業
事業目的	地域と連携した学校づくりを目指すため、令和4年度中に学校運営協議会を各校に設置する。
事業目標	協議会委員をはじめとした保護者及び地域の理解・協力を得ることで、学校運営協議会の円滑な運営を図る。
事業概要 (実施状況)	各小中学校において学校運営協議会が設置され、活動が始まった。
評価項目①	学校運営協議会委員の設置・運営
評価指標	学校運営協議会の開催
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校年1回以上
実績	各小中学校ごとに委員を選定し、概ね各学期につき1回以上運営協議会を開催した。
達成度	◎
評価項目②	学校運営協議会委員への研修会等の開催
評価指標	学校関係団体等の講師による制度説明
指標取得先	各小中学校ごとの開催回数
目標値	各小中学校1回以上
実績	各小・中学校の運営協議会に合わせて希望校を対象に開催した。 ※ 2月16日時点開催済：2校、年度内開催予定：3校 ※ 3学期中の学校運営協議会に併せて開催予定としていたが、他の学校行事との兼ね合いもあり全校開催に至らなかった。
達成度	△
成果	① 各小中学校ごとに委員を選定し、各校ごとの特色ある活動(マラソン大会、漁業体験、自然体験、学習補助等)が実施された。 ② 岩手県教育委員会の社会教育主事及び市主任指導主事を講師とし、研修会(令和4年度の実施状況、令和5年度の事業概要、他市町村における活動事例紹介、質疑)を開催した。
次年度の課題	① 活動2年目となることから、1年目の改善点を見直し、学校と地域の協力による児童生徒の教育環境の向上のため、活動の支援を継続する必要がある。 ② 年間の活動が順調に進めることができるよう、委員への研修等、支援を継続する必要がある。

協議第2号 令和5年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について

令和5年度大船渡市地域学校協働本部事業の評価検証方針について、大船渡市学校支援活動運営委員会設置要綱第2第1項の規定に基づき、意見を求めます。

令和5年2月16日

大船渡市学校支援活動運営委員会

委員長 鎌 田 慎

事業名	家庭教育学級		
事業目的	学校、保護者、地域住民、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもを取り巻く諸課題についての共通認識を持つ ② 課題解決に向けたスキルの向上を図る		
事業概要	市内小・中学校5校、保育園・こども園4園を対象に家庭教育学級を開催する。		
評価項目①	学校・家庭・地域等と連携したコミュニケーションの促進		
評価指標	学習内容の満足度。「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	1校（園）あたりの前年比参加人数	
指標取得先	学習終了後のアンケート	実績	
目標値	80%以上	前年比同数以上(R4実績：60.3人)	
評価項目②	学校・家庭・地域等と連携した家庭教育にかかる知識の習得		
評価指標	※ 学習内容の満足度 ※ 「大変良かった」「良かった」と答えた人の割合	※ 学習内容の家庭での取組意欲 ※ 「そう思う」「まあまあそう思う」と答えた人の割合	※ 学習内容の理解度 ※ 「概ね理解できた」「要点は理解できた」と答えた人の割合
指標取得先	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	80%以上	80%以上
事業名	英語スクール「英語体験教室」		
事業目的	学校、保護者、行政が連携して子どもの健全育成、家庭教育力の向上を図る。		
事業目標	① 子どもの創造力を育む ② 子どもの自主性を育む		
事業概要	夏季から秋季にかけて、保育園等における年中から小学2年生までを対象に、国際コミュニケーション能力の育成や国際理解の促進に資するため、楽しみながら英語を学び、異文化交流を図る機会を提供する。		
評価項目①	創造力の向上		
評価指標	定員に対する参加率	「新しくやりたいことがみつかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫することが楽しかった」と回答した参加者の割合	
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	50%以上	
評価項目②	自主性の向上		
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した参加者、保護者の割合		
指標取得先	学習終了後のアンケート		
目標値	80%以上		

事業名	青少年体験学習	
事業目的	これからのまちづくりを支える多才な人材の育成と、子どもたちに多様な経験を積ませて、青少年の健全育成に寄与する。	
事業目標	① 子どもの創造力を育む ② 子どもの自主性を育む	
事業概要	夏季から冬季にかけて、保育園等における年中から中学3年生までを対象とした様々な分野における体験学習の機会を提供する。	
評価項目①	創造力の向上	
評価指標	定員に対する参加率	「新しくやりたいことが見つかった」「自分でできることがふえた」「アイデアを考えたり、工夫することが楽しかった」と回答した参加者の割合
指標取得先	実績	学習終了後のアンケート
目標値	80%以上	50%以上
評価項目②	自主性の向上	
評価指標	「自分から進んで取り組むことができた」「お子様は意欲的に学習に取り組むことができた」と回答した参加者、保護者の割合	
指標取得先	学習終了後のアンケート	
目標値	80%以上	

事業名	スクールガード配置事業				
事業目的	登下校時の児童生徒の安全を確保するためのスクールガードに地域住民が参画し、地域全体で子どもたちを見守り育てる意識の向上を図る。				
事業目標	① スクールガードを配置することで、登下校時の児童生徒の安全を確保する ② 地域住民による参画で地域コミュニティ形成の一助とする				
事業概要	① 市内各小・中学校にスクールガードを配置し、登下校時の安全を確保する。各校の状況に応じ、引率型、巡回型、スクールバス添乗型により実施する。 ② 地域住民をスクールガードとして登録し、登下校時の安全監視を行う。				
評価項目①	登下校時の児童生徒の安全確保				
評価指標	事故発生件数		声かけ事案発生件数		
指標取得先	年間実績		年間実績		
目標値	0件		0件		
評価項目②	地域住民による参画				
評価指標	配置人数	生きがいである・楽しみだと感じる割合	地域内交流拡大の割合	事業の認識・周知の割合	地域ぐるみでの取組に対する認識の拡大
指標取得先	年間実績	SGアンケート	SGアンケート	保護者アンケート	保護者アンケート
目標値	39人	75%	75%	75%	75%

事業名	学校支援事業				
事業目的	学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働を推進するため、地域コーディネーター等を配置し、学校支援活動の推進を図る。				
事業目標	地域住民が、学校や関係機関と連携した学校支援活動を推進する。				
事業概要	地域コーディネーターを配置し、地域ボランティアによる学校支援を実施する。図書支援活動地域ボランティア研修会を実施する。				
評価項目①	地域コーディネーターの人材確保				
評価指標	学校支援活動を推進する地域コーディネーターを配置する				
指標取得先	年間実績				
目標値	15校配置				
評価項目②	生涯学習の成果をいかした地域ボランティアの育成				
評価指標	ボランティアの人材確保と育成を図るため研修会を開催する		研修内容を学校支援ボランティア活動に活用できると回答した人の割合		
指標取得先	参加者の割合		受講者アンケート		
目標値	75%		80%		

事業名	学校運営協議会設置事業
事業目的	地域と連携した学校づくりを目指すためのコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度を導入する学校）を設置する。
事業目標	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度を導入する学校）の推進のため、制度に対する保護者及び地域の理解、協力を得る。
事業概要	コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度を導入する学校）の推進のため、各小・中学校ごとに選任した運営委員に対し、外部講師による制度説明を行う。
評価項目①	学校運営協議会委員への研修会の開催
評価指標	学校関係団体等の講師による制度説明を行う。
指標取得先	各小・中学校ごとの開催回数
目標値	各小・中学校1回